

トピック — はくさいの需給動向 —

11月中旬以降、北日本を中心に積雪が既にみられるなど、冬本番を迎えるなかで、これから需要が高まる野菜がはくさいである。そこで、今回は、最近のはくさいの需給動向を紹介する。

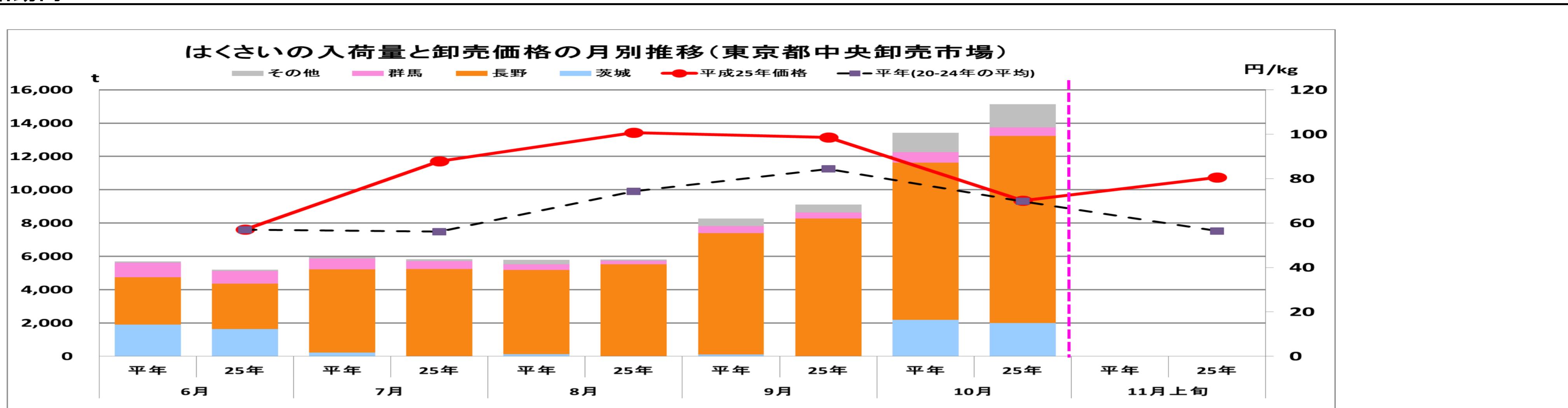
はくさいの卸売市場での動きをみると、入荷量は、6月は平年を下回り、7~8月はほぼ平年並み、9~10月は平年を上回って推移している。一方、価格は、概ね平年を上回って推移している。

夏はくさいの主産地である長野県等では、5~6月の生育期の少雨の影響を受け、小玉傾向であったこと等から、生産量は平年を下回るとみられるものの、市場への入荷量はほぼ平年並みである。この動きの違いに関しては、昨年夏の腸管出血性大腸菌O-157の食中毒事件の発生に伴い、はくさい漬物の消費が減少するなかで、漬物業者が産地との契約数量を減らしたために、産地から市場への出荷の動きが強まったことも影響しているとみられる。

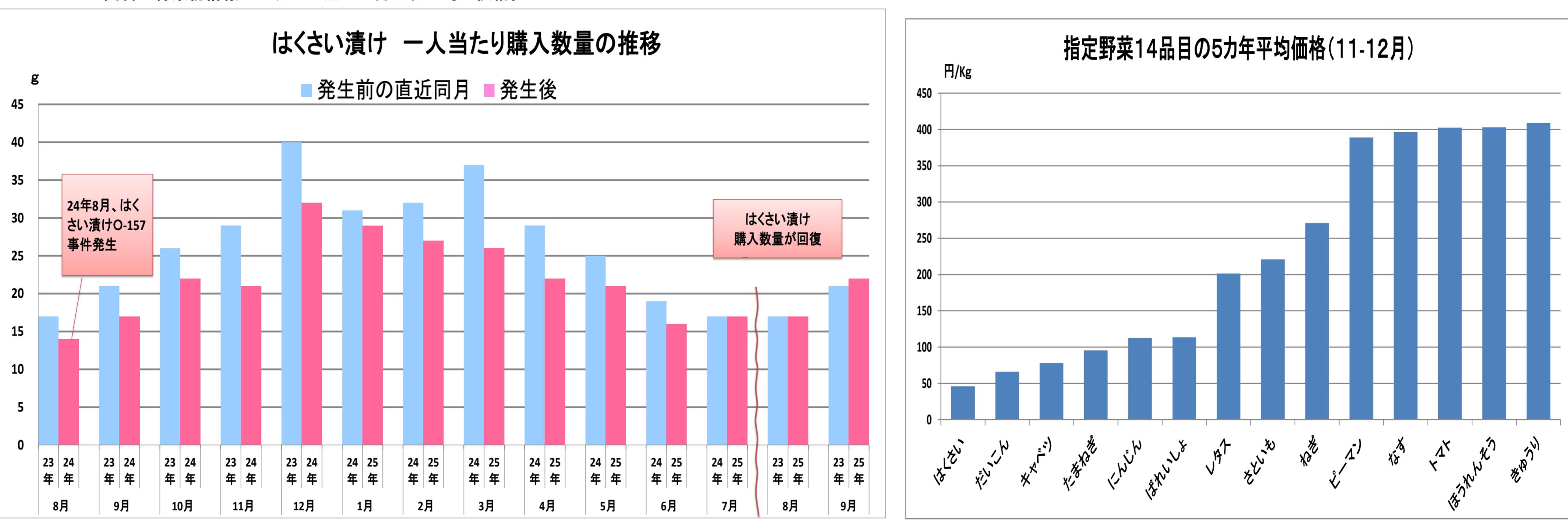
また、入荷量がやや増加するなかで、卸売価格が平年を上回って推移している要因としては、はくさいの漬物需要の回復に伴い、卸売市場からの原料調達の動きも影響しているとみられる。

実際に、はくさい漬けの家計消費量は、昨年8月の事件以降、減少傾向で推移していたが、今年7月以降は事件発生前の水準への回復傾向がみられる。

はくさいの出荷は、台風の影響により生育の遅れや病害の発生も一部主産地でみられ、平年より少なめの出荷となっているが、12月以降は出荷量の回復が見込まれている。はくさいは、指定野菜の中で重量当たりの単価も低く、今後、本格的な寒さの訪れとともに、鍋物向け食材などとして需要が高まることから、安定的な生産・出荷が期待されている。



資料: 青果物情報センター 注: 11月は、上旬の価格。



●問い合わせ先 独立行政法人農畜産業振興機構 野菜需給部 需給業務課 村野、斎藤、山田 TEL03-3583-9483、FAX03-3583-9484 ご意見、ご要望をお寄せください。□

◆「野菜の需給・価格動向レポート」は月2回公表しています。公表時にメルマガでお知らせしますので、ご希望の方はベジ探のトップ画面、メルマガ配信登録・解除ボタンから登録してください。

★この「野菜の需給・価格動向レポート」は、http://vegetan.alic.go.jp/vegetable_report.htmlに掲載しています。